

令和5年11月 岡崎市文化財保護審議会会議録

開催日時：令和5年11月9日（木） 午前9時30分～午前11時30分

開催場所：岡崎市役所西庁舎7階 701号室

出席委員：9名

杉野丞委員（会長）・荒井信貴委員（会長職務代理者）・内田尚之委員・奥田敏春委員・杉坂美典委員・堀江登志実委員・山田伸子委員・渡邊幹男委員・鷹巣純委員

欠席委員：0名

説明のために出席した事務局職員：6名

社会教育課：田中典子課長・菅沼貴之岡崎城跡係長・岡山幸男文化財係長・平山優主事・澤井奎志主事・内田かほり会計年度任用職員

道路建設課（担当課）：稲垣篤志橋りょう係長、中根諒祐主査

傍聴者：1名

議事内容

1 諮問事項

- (1) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（坂谷曲輪発掘調査）について
- (2) 市指定天然記念物山中八幡宮のヒメハルゼミ生息地の現状変更について
- (3) 市指定天然記念物ゲンジボタルの現状変更（学校橋耐震補強工事）について
- (4) 市指定天然記念物ゲンジボタルの現状変更（公共土木施設災害復旧工事）について

2 その他

- (1) 岡崎市史研究発行の再開について
- (2) 岡崎城天守の下水管修繕について
- (3) 国道1号の歩道拡幅事業について
- (4) 龍城神社の狛犬の修繕について

議題及び議事の要旨

1 諮問事項

- (1) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（坂谷曲輪発掘調査）について

【事務局説明】

岡崎市教育委員会では、岡崎城跡整備基本計画に基づき、整備方法等を検討するための基礎となる城郭遺構について研究調査を進めてきた。この調査研究の一環として、令和6年1月から273㎡の坂谷門、坂谷曲輪の発掘調査を計画している。調査対象地となる坂谷曲輪は、本丸と二の丸の西側の一段低い場所に位置する曲輪。坂谷曲輪の西側は、水堀を隔てて白山曲輪があり、絵図によればこの堀を望む坂谷曲輪の縁辺には土塀が築かれていた。坂谷曲輪の出入り口としては、今回調査を行う坂谷門がある。坂谷門は、枳形（方形の広場）を構成し、枳形の外側には土橋で結ばれる丸馬出しも備えた虎口を形成していた。また、坂谷門は枳形の前後に門が設けられており、本丸から見て外側の門が高麗門、内側の門が門の上部に櫓が載る櫓門という構造を想定している。坂谷門、坂谷曲輪は令和2年度にトレンチを設定して1次調査を実施した。調査検出遺構は資料のとおり。令和5年度の発掘調査では、資料のように2基のトレンチを設定して行う調査を計画している。今回の調査で最も期待される

成果は、坂谷門の平面構造を解明することにある。具体的には、前回発見されなかった外門と内門の残りの礎石、枳形内の雁木や犬走り等の構造、外門に接続する塀の基礎、外門脇石垣の基底部等がある。外門脇の石垣は、明和7年(1770年)の書上文書には、「坂谷多門両脇石垣高さ一間一尺五寸ずつ」と記載されており、本来の石垣の高さは、約2.3mであったことが分かるが、平面的な建物規模に関わる記載がないことから、今回の調査で基底部や礎石が確認されることで、正確な規模が明らかになるものと考えられる。また、今回の調査成果は、現地説明会及び資料配布等によって普及に努める予定。豊臣側に睨みを利かせる西側の搦手門であり、前本多段階で構築された貴重な遺構の構造解明に努めていきたい。

【質疑応答】

委員：令和2年の調査で掘削したトレンチは今回の調査でも掘削するのか。全体像を掴むためや一般の人に分かりやすく見てもらうためにも前回で掘削したトレンチも含めて全体的に発掘することも検討してはどうか。

事務局：配慮していきたい。

委員：今回の調査によって堀の位置等の検出もできれば、絵図の正確さが検証できると思うのでお願いしたい。

(2) 市指定天然記念物山中八幡宮のヒメハルゼミ生息地の現状変更について

【事務局説明】

山中八幡宮の御神木の樹勢が弱っているという連絡を受けた。原因としては山中八幡宮に生えている木々が御神木に覆いかぶさるように生えており、日光が当たりづらくなっていた。御神木周りの木々を伐採したいという連絡を受け、山中八幡宮一帯がヒメハルゼミ生息地の指定地のため、現状変更の申請をしてもらった。今回懸念される点は、ヒメハルゼミ生息地の木を伐採することで、セミの生息場所を減らしてしまうのではないかとということだが、ヒメハルゼミはシイやカシの木に多く生息すると言われており、今回の申請箇所はツブラジイの分布箇所から外れているため、影響は少ないと考えられる。また、シイやカシの木については枝打ち等で木をなるべく残すようにし、杉の木については伐採もしくは枝打ちをしてヒメハルゼミになるべく影響のないようにしていきたい。

【委員補足説明】

今回の箇所はツブラジイの分布域とは離れており、社殿や御神木の周りでは抜け殻はほとんど見つけることができないため、心配する必要はないと思う。杉の木は伐採、ツブラジイは枝打ちを行い、ヒメハルゼミは根の栄養分を吸って生きているセミのため、木が生きつれさえすれば、心配はいらないだろう。

【質疑応答】

委員：実際にどのくらいの高さの木を何本切るのかが分からない。

事務局：杉の木を10本、シイの木を1本伐採する予定。作業内容によっては変わってくる可能性はある。

委員：保存活用計画を作成すれば、迅速に対応できるため、準備を進めてほしい。

委員：今回伐根をする場合は、埋蔵文化財的な視点で立ち合いもしてほしい。

委員：伐根することで影響が大きくなるため、伐根する必要はない。伐採のみで対応してほしい。

事務局：伐採のみで対応し、保存活用計画についても検討していく。

(3) 市指定天然記念物ゲンジボタルの現状変更（学校橋耐震補強工事）について

【事務局説明】

牧平町にある橋脚の耐震補強工事实施に伴い、ゲンジボタルの指定範囲内にあたるため、現状変更を提出してもらった。現状変更を必要とする理由は、地震等の発生に備え、避難・輸送・復旧活動といった災害時に道路網が持つ役割を確保するため。工事の際に懸念される点は、工事の中で土砂による濁水が発生し、川に流れ込んでしまうこと。対応としては、濁水時に仮締切を設置した上で施工し、施工範囲と流水路は常にシルトフェンスで区切ること、工事中の土砂による濁水の発生に対して最大限の防御を図る。また、掘削作業で発生すると想定される濁水は、仮設沈砂池を通して排水する計画としている。さらに、建設重機を起因とする水質汚濁に対しても作業マニュアルを作成し、これを作業員へ遵守させることで事故防止を図る。施工箇所は局部的であり、施工にあたってはゲンジボタルの活動期に留意するとともに、濁水の流出に対し十分な対策を講じるため、影響は少ないと考えられる。

【委員補足説明】

今回の工事で懸念される点は、細かい土砂によって水が汚れ、下流域に生息している幼虫に影響があること。細心の注意を払って慎重に工事をしてもらいたい。実際に生息している個体数も少ないため、そこまで影響はないだろう。

(4) 市指定天然記念物ゲンジボタルの現状変更（公共土木施設災害復旧工事）について

【事務局説明】

今年度5～6月の大雨による影響で旧額田地域河川の護岸が数箇所崩れ、西三河建設事務所から申請があり、災害復旧工事を行うもの。復旧箇所は10箇所。懸念される点は、工事時に濁水等が川に流れ、ゲンジボタルに影響があるのではないかとということ。ゲンジボタルの活動時期を避けて施工し、大型土のうで仮締切りを行い、汚濁防止膜や土木シート等により大型土のうを養生し、濁水の河川流入を防ぐ。また、掘削高さが水位より低い場合は、掘削する際に水際の堆積土砂の一部を築堤として残し、濁水の流出を防止する。重機を使用するため、有害物質が河川内に流入することがないように河川内建設重機作業マニュアルを利用する。ホタル生息域に影響のないように、護岸すべてをコンクリート張りにすることのないよう留意し、復旧工事を行う。元々土があった部分は土を残し、コンクリートの部分はコンクリートにする等ゲンジボタルの生息域を減らすことのないよう対策をしていく。

【委員補足説明】

元の状態に戻すということ、川の水がなるべく汚れないようにしてもらうことをしっかりとしてほしい。範囲が非常に広いので、慎重に対応してほしい。

【質疑応答】

委員：保存活用計画を作成し、審議会にかけずに事務局判断で進められるようにしてほしい。河川が災害を受けた場合の保存活用計画を作成し、すぐに対応できるようにしなければならない。

事務局：文化財保護法や岡崎市文化財保護条例の非常災害における災害復旧に関しては、審議会の許可を受けずにその場で対応できるという条例上の仕組みになっているため、緊急を要する場合はその場で対応する。今回のように時間がある場合は、審議をして進めていきたい。保存活用計画の作成についても検討していきたい。

委員：時間がある場合でも、審議会にかけずになるべくすぐに対応できるよう、保存活用計画を作成してほしい。

4 その他

(1) 岡崎市史研究について

【事務局説明】

市史研究については、平成30年発行の第36号を最後に近年発行がないため、文化財保護審議会委員が編集委員会委員を兼ねることを定めた岡崎市史研究編集要綱の内容説明及び今後の発行についての意見聴取を行った。

【質疑応答】

委員：埋蔵文化財の立ち合い報告や文化財の報告等を掲載したい。

委員：文化財関係の報告書や松平氏の研究について掲載したい。

委員：岡崎公園の動植物の調査について掲載したい。

委員：北山湿地や天然記念物についての特集を組んで掲載したい。

委員：発掘調査成果について掲載したい。

委員：文化財行政にリンクする形で進めていければと思う。

委員：市史の裏付け資料を確認したいと思っても廃棄されて失われていることが多いため、収集されたアーカイブの維持・活用やアーカイブに資料を追加していく目的で刊行すべき。閲覧については、デジタル化し、岡崎市の歴史に関心を持った全国の人が活用できるようにしてほしい。

委員：毎年事前に予算を組み、それに合わせて原稿を集めていくのは現在の体制では困難。編集委員が事前に原稿を準備した上で、次年度の予算を取っていくという形をとれば、事務局の負担も少ない。事務局と協力して進めていきたい。

(2) 岡崎城天守の下水管修繕について

【事務局説明】

岡崎城天守のトイレ排水管が破損し、詰まりや漏れが発生した。下水管にカメラを入れて調査したところ、管の継ぎ目でずれが生じていることが確認された。修繕に関しては掘削を伴うため、遺跡に影響のないよう確実に立ち合いをした上で修繕を進めていきたい。

(3) 国道1号の歩道拡幅事業について

【事務局説明】

岡崎城南切通しのごく一部が拡幅対象に含まれているが、調査済みで遺跡のレベルを承知しており、既存施設の維持管理という観点から事務局許可にて進めていきたい。

(4) 龍城神社の狛犬の修繕について

【事務局説明】

狛犬に傾きが生じている。既存施設の維持管理という観点から事務局許可にて修繕を進めていきたい。

(5) 次回の審議会開催について

令和6年2月9日（金）午前9時30分～開催予定。